

いじめについて考える日について

今日は大阪市教育委員会が定めた「いじめについて考える日」です。この日を設定した目的は

- 1・「いじめについて考える日」を設定することにより、「いじめはいつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、「いじめは生命をもおびやかす行為であり、人間として絶対に許されない行為である」ことを学校全体で再認識する。
 - 2・「いじめを許さない学級・学校づくり」は仲間づくりの基本であることから、子どもたちがお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会とする。
 - 3・学校が中心となって取組を積み重ねることで、児童生徒・教職員のみならず家庭や地域全体で「いじめ防止」の意識を高める。
- です。

そもそもいじめとはどういったことを指すのでしょうか？文部科学省は、いじめとは同じ学校やクラスの児童生徒に心理的・物理的苦痛をあたえる行為のこと、と規定しています。具体的にはどんな行為を指すのでしょうか？少し考えてみてください。

これも文部科学省のデータですが、苦痛の与える行為の1位は「からかい、悪口、嫌なことを言う」でした。おそらくほとんどの人が予想したことと同じだと思います。

この「からかい、悪口、嫌なことを言う」事に関して小学生には一度お話しした内容になりますが、校長先生の人形劇を見てください。

ここに、よく友達の悪口や嫌なことを言うAさんがいます。Aさんの口から出ているピンクの○一つ一つがその悪口や嫌なことです。

昔、こんな実験をした人がいます。

まず最初に、Aさんが言った悪口や嫌なことをビニル袋いっぱいに集めます。

次にその空気を空気圧縮機でどんどん圧縮していきます。

そうすると、その空気はこんなピンク色したきれいな小さな粒になります。

これを、ハムスターに与えます。するとハムスターはどうなったのでしょうか？

なんと、ハムスターは死んでしまったそうです。どうしてでしょうか？

そうです、その小さなピンクの粒にはハムスターを殺す程の毒がいっぱい詰まっていたのです。人の悪口や嫌なことを言ったその空気には毒がいっぱい詰まっていたのです。

古来、日本では言葉（祈り）で病気を治したり、逆に病気にさせたり、時には雨を降らせたりする人がいたそうです。祈祷師と呼ばれる人たちです。校長先生も詳しいことはわかりませんが、それほど人が発する言葉には力があるということでしょう。先ほどのハムスターの実験からもそれはわかります。

なので、先生たちが友達が悪口や傷つくことを言うのを止めましょう！

とみんなによくいう意味が分かりますよね。悪口は本当に友達的心や体を傷つける怖い兵器なのです。そして、悪口や嫌なことを言う人は、その毒にまみれた悪い空気を自分でも吸っているのです。

文科省の調査によると小学校 4 年生から中学校 3 年生までの 9 割以上が被害者であれ加害者であれ、いじめに関わったことがあるそうです。みなさんも心当たりがあるでしょう。今日からはまず、人が嫌がる悪口や嫌なことを言うことを止めましょう！それがいじめを無くす第一歩となります。

これで校長先生のお話を終わります。